

平成30年度表彰提案一覧

賞名	表彰内容	提案者	提案種類	提案事項	現状又は改善前の状況	改善後の状況	効果
最優秀賞	効果が非常に高く最も優れた提案	子育て応援課 渡邊勝也嘱託員 林良輔主査	実績提案	しまいくラインを活用したアンケート調査	子育て関係の事業で、ニーズや効果を確認するには、郵送又は施設での聞き取り調査をするしかなく、時間と人と費用がないと実施できなかった。感覚や見込みで事業を実施することが多かった。	しまいくラインのお友達登録者1422人(平成30年9月14日現在)に対して、無償で使えるラインのアンケート機能を活用することにより、迅速に大勢に対してアンケートが実施でき、集計も自動で行われる。事業に対するニーズや効果がわかり、事業の改善につながった。 アンケート4回実施 1. しまいくライン配信について 2. 島田市子育てガイドブックについて 3. 島田子育てカレンダーについて 4. 子育てのまちしまだ情報発信事業について	経費 システム使用料 0円 子育て情報の配信に使っているラインを活用するため削減効果 経費削減 郵送料 543人(計4回延べ回答者数)×164円(往復の郵送料)=89,052円 郵送での回収率50%の場合 1,086人×82円+543人×82円=133,578円 時間削減 アンケート集計作業 1枚処理時間 1分 543人×1分=543分=9時間3分
職員大賞	職員投票で最多得票となった提案	学校給食課	実績提案	学校給食センターで使用するホッチキスの針とクリップ、輪ゴムを一般に多く使用されているものと違うカラーのものに替え、異物混入を防ぐとともに混入ルートの判明、センターの自己防衛のため実施している。	学校給食センターでは、衛生管理・異物混入防止に日々努めている。調理室内には、ホッチキス、輪ゴム、クリップなど持ち込むことは禁止し、業者にも徹底している。そのような中、児童が喫食中にホッチキスの針が混入していたという事案があった。上記のように、学校給食センター調理室には、ホッチキスは持ち込むことはないが、混入先が特定できない事案となった。そこで、ホッチキスの針とクリップ、輪ゴムを一般に多く使用されているものと違うカラーのものに替え、異物混入を防ぐとともに混入ルートの判明、センターの自己防衛のため実施している。	ホッチキスの針をカラーにしてから、学校で喫食中にホッチキスの針が入っていたとの主訴が1件あったが、学校給食センターでは使用していない旨説明し、更に学校で調べた結果給食の前に授業でホッチキスを使用していたものであるということになり、学校給食の異物混入ではないとすることができた。また、センター内でもカラーのホッチキス、クリップ使用するたび異物混入防止の啓蒙となっている。	学校給食センターが出した異物混入か学校での配膳中の過ちか判断材料になる。カラーのホッチキス、クリップ使用するたび異物混入防止の啓蒙となっている。 単価の比較 一般的なもの カラー ホッチキスの針 52円 162円 ゼムクリップ 500個入224円 360個入345円 輪ゴム 120本入190円 100本入190円
優秀賞	効果が高く優れた提案	課税課 市民税担当	実績提案	課税課市民税担当による年末調整補助作業	島田市職員分(約1,500名)の年末調整は、例年、人事課の職員が行なっている。書類の取りまとめから内容の精査及び入力までを短期間(約2週間)で行なう必要があることから、時間外労働が非常に多く、職員の負担も多大と伺っている。	年末調整関係書類の内、「給与所得者の保険料控除申告書兼給与所得者の配偶者特別控除申告書」に関する確認作業を、課税課市民税担当職員が行なう。 ・個人情報保護の観点から、対象は島田市に課税権のある職員のみとする。 ・確認作業は、平日の通常勤務時間内のみとする。	(1) 年末調整は確定申告に精通しているため、課税課職員が確認することでより正確に処理することができ、また、新たに課税課職員となった者にとっても税に関する基礎知識を習得できる良い機会となる。 (2) 人事課職員の負担を大幅に軽減することができ、時間外労働時間(手当)の削減も見込める。

賞名	表彰内容	提案者	提案種類	提案事項	現状又は改善前の状況	改善後の状況	効果
優秀賞	効果が高く優れた提案	広報情報課	実績提案	全庁LANネットワークの回線見直しによる経常経費(回線費用)の削減と回線帯域の増強	(1)拠点数 ①全庁LANネットワーク回線 H30.9まで:55拠点(本庁舎、保健福祉センター、支所等の各拠点) H30.10から:57拠点(データセンター、プラザおおるり新設) ②本庁舎一支所間FAX用回線 現状:4拠点(本庁舎、各支所) (2)予算(約15,965千円) ①全庁LANネットワーク回線 約935千円/月(H30.9まで) 約1,348千円/月(H30.10から) ②本庁舎一支所間FAX用回線 約141千円/月 (3)回線帯域 ①全庁LANネットワーク回線 本庁舎100Mbps、その他拠点1~5Mbps ②本庁舎一支所間FAX用回線 4拠点100Mbps (4)回線事業者 ①全庁LANネットワーク回線 西日本電信電話株式会社(NTT西日本) ②本庁舎一支所間FAX用回線 中部テレコミュニケーション株式会社(CTC)	平成31年1月から回線見直し後による運用開始。 (1)拠点数 ①全庁LANネットワーク回線:57拠点(本庁舎、データセンター、支所等の拠点) ②本庁舎一支所間FAX用回線:4拠点(本庁舎、各支所) (2)費用(見込み) ①全庁LANネットワーク回線:約821千円/月(H31.1~) ②本庁舎一支所間FAX用回線:約73千円/月(H31.1~) (3)回線帯域 ①全庁LANネットワーク回線:本庁舎・データセンター1Gbps、その他拠点100Mbps ②本庁舎一支所間FAX用回線:4拠点100Mbps (4)回線事業者 ①全庁LANネットワーク回線:中部テレコミュニケーション株式会社(CTC) ②本庁舎一支所間FAX用回線:中部テレコミュニケーション株式会社(CTC)	今回の全庁LANネットワーク回線見直しにより、経常経費の削減及び回線帯域増強によるシステム利用時におけるパフォーマンスの向上が見込めます。なお、①全庁LANネットワーク回線の見直しの事業者が中部テレコミュニケーション株式会社となったため、同社で既に利用していた②本庁舎一支所間FAX用回線費用も見直し後の金額で提供する提案があり、あわせて経費削減が可能となりました。 ◆経常経費の削減 ・月額費用が現状費用から約114千円の削減(来年度以降も継続)・拠点増加(2拠点)に伴う費用増加を抑制 ・本年度分で、約3,024千円の削減効果 ~以下、内訳~ 本年度分の削減効果(見込み):約3,024千円((2)-(1)) (1)今回の回線見直し後の費用(見込み):総事業費 約12,366千円(①+②) ①全庁LANネットワーク回線:約10,878千円/年 ・約935千円×9ヶ月=8,415千円(H30.4~H30.12) ・約821千円×3ヶ月=2,463千円(H31.1~H31.3) ②本庁舎一支所間FAX用回線:約1,488千円/年 ・約141千円×9ヶ月=1,269千円(H30.4~H30.12) ・約73千円×3ヶ月=219千円(H31.1~H31.3) (2)回線見直しをしなかった場合の費用(仮定):総事業費 約15,390千円(①+②) ①全庁LANネットワーク回線:約13,698千円/年 ・約935千円×6ヶ月=5,610千円(H30.4~H30.9) ・約1,348千円×6ヶ月=8,088千円(H30.10~H31.3) ②本庁舎一支所間FAX用回線:約1,692千円/年 ・約141千円×12ヶ月=1,692千円(H30.4~H31.3) ◆回線帯域の増強によるパフォーマンスの向上 ・全庁LANネットワークの回線帯域は、全ての拠点で増強される。 (例)本庁舎100Mbps⇒1Gbps、保健福祉センター5Mbps⇒100Mbps ・回線帯域の増強により、システム(グループウェア等)を利用する際の画面遷移等のパフォーマンスが向上することが見込まれる。
行政経営会議委員長賞	効果や獨創性、実現性があると認められるもの	生活安心課 江崎加奈書記	実績提案	市役所駐車場を活用した交通安全イベント	・市の交通安全講習会は、依頼があった場合に開催しており、交通安全意識のある方々が受講しているが、同じ地域・同じ団体からの依頼が多い。自ら進んで講習会に足を運ばない方への啓発ができていない。 ・市職員向けの交通安全啓発は、島田警察署員による年1回の交通安全講話であるが、毎年聴講のみでは交通安全意識が薄れてしまう。	・11月7日(水)、拡大した市役所駐車場の約半分を利用し、「自動ブレーキ・スマートアシストカーの乗車体験」や「VRによる交通事故模擬体験」等、公会堂等ではできない大規模な「体験型交通安全イベント」を実施した。(半分の駐車場が満車になってしまった場合に備え、交通安全イベント参加者の臨時駐車場を設け、シャトルバスで会場まで送迎した。) ・午前のみ実施した「白バイのスラローム走行」では、児童・園児約400名が歓声を上げながら見学し、大人にも楽しんでいただけた。 ・市役所駐車場で開催することで、市職員に運転適性検査や反射神経の測定機器を体験していただき、自身の運転の癖や反応時間を再確認していただけた。	・市職員をはじめ、市役所を訪れた市民の方々に楽しみながら交通体験をしていただき、交通安全意識の向上を図ることができた。 ・県内で初めて、交通安全イベントで白バイのスラローム走行を披露し、児童・園児に交通安全に興味を持っていただけた。 ・自ら進んで交通安全イベントに足を運ばない方にもマイカー点検等を通じ、交通安全の啓発ができ、交通事故の削減が期待できる。 ・関係機関が「交通安全意識の向上」と市内の交通事故削減」という同じ目的で取り組むため、機材の使用等無料で実施ができ、交通安全の周知ができた。
奨励賞	効果があり良い提案	危機管理課	実績提案	災害対策本部情報処理フローの作成	災害対策本部の情報の取扱いについては、様式と簡単な命令伝達経路図でまとめられていたが、本部内で誰がどのように情報を扱うか具体的に示したものがなかった。	静岡県危機管理指導監の指導を受け、市で対処しなければならない情報を整理して、情報受信から対策決定、対策完了までの流れを図示した「情報処理フロー」を作成し、誰が、どの情報を、どのように扱うか明確にした。10月15日に本部運営訓練を市長以下多くの職員の協力を得て実施し、実際に新たな情報処理フローによる流れを検証した。今後、検証結果に基づいて処理フローを更新していく。	県事業に手を上げたため、費用は掛かっていない。県によると、独自にコンサルタントに依頼して実施した場合は数百万円掛かり、なおかつ情報処理フロー作成のノウハウは教えてもらえないとのこと。訓練当日は県内市町からの視察も多く、次回以降の実施を希望している市町が多いと聞いている。今後フローを精査、更新していくことにより災対本部の情報処理が円滑に進むことが期待され、実災害時の混乱を減少させる効果がある。